



元ひめ



contents

- ◆特集・・・海的路
- ◆現場だより・・・海のお仕事やっています!

撮影場所:今治港富田地区岸壁

所長室より

瀬戸内海は古くから海の回廊として重要な役割を果たしていますが、点在する島々や暗礁により航路が狭い上に屈曲が多く、特に来島海峡航路では複雑な潮流も影響して事故が多発してきました。そこで本号でも紹介しますが、昨年12月に開発保全航路の区域が拡大され、船舶の航行に支障が出るような状況が発生した場合に迅速に対応できる範囲が広がりました。今後とも関係各位と協力し、さらなる安全確保に努めてまいります。

ところで、この来島海峡の潮流を体験できる船が地域の方々の手で運行され、多くの観光客を集めています。泳いで渡れそうな狭い海峡ですが、深い場所では水深160mを超えるという複雑な海底地形も一因となって、海中から湧き上がり激しく流れる潮流を体験できます。能島村上水軍の居城跡や眼前に迫る建造中の巨大船など多くの見所もありますので、ぜひ乗船してみてください。

この潮流のように、地域独自の観光資源を発見・活用した地域興しの取り組みが各地で行われています。みなとを舞台にした賑わいや交流拠点づくりを支援する「みなとオアシス」もその一つで、平成15年に中国・四国地方整備局が創設して以来全国に広がり、現在43港が登録されています。

愛媛県内では既に八幡浜港と伯方島の枝越港が登録され様々な活動が行われています。このうち八幡浜港では「やわたはま海鮮朝市」が人気イベントとして定着していますが、さらに年間約47万人のフェリー客が訪れるという特性を活かすための取り組みが進められています。そして現在、同じく南予の宇和島港では、「みなとオアシスうわじま きさいや広場」の今年4月のスタートに向けて準備が進んでおり、三崎港など他の地域でも検討が行われています。厳しい不況により地域経済も大きな影響を受けていますが、豊かな海の恵みに溢れたこれらのみなとオアシスが交流の拠点となり、互いに連携を深めることで多くの人々が訪れる活力ある地域となるよう、地域の方々とともに取り組んでいきたいと思っております。

国土交通省四国地方整備局
松山港湾・空港整備事務所

所長 中川 研造

【特集】海の路

陸上に道路があるように、実は海上にも船の通り道があります。船が安全に航行できるよう確保されたこの路を「航路」といい、実際に目で見ることができませんが、海上交通の整備に欠かせない脇役として大事な役割を果たしています。

●●● 開発保全航路って? ●●●

多くの島々が点在する瀬戸内海や宇和海の航路は、幅が狭く湾曲し、潮流も早いことから航行の難所となっています。そこで当所では、愛媛県内の5つの航路（来島海峡航路・鼻栗瀬戸航路・奥南航路・細木航路・船越航路）において、衝突などの海難事故を防ぎ、より安全で迅速な船舶の航行を保つため整備を進めています。このように「船舶の交通を確保するため開発及び保全に関する工事を必要とする航路」を開発保全航路と言います。

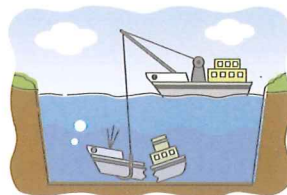
◆航路位置図◆



保全とは



既に整備された航路で、埋没や沈没船の有無などの定期的な調査を行い、航路機能を管理する。



埋没や沈没船により航路機能が確保されていない場合は、除去工事や浚渫を行う。

開発とは



地形や波浪等の自然条件により船舶の通航に危険が多いところを避け、通航距離を短くするために航路を改良したり、新しく航路を開削する。



船舶の通航の安全性を高めるため、岩礁などの障害物を撤去する。



船舶の大型化や通航量増加に対応するため、既に整備された航路を拡幅したり増深する。

●●● 広くなりました! ●●●

平成20年12月、港湾法施行令の改正により来島海峡航路の区域が拡大されました。これは、国際・国内海上物流ネットワークの根幹を形成する航路のひとつである来島海峡航路において、海上輸送や海洋の安全性を確保するため、平常時及び海難事故など緊急時の保全・管理をより強化することが目的です。

区域拡大により、沈没船などによって他の船舶航行の障害となる場合は、迅速に撤去することが可能になります。また、沈没船などの障害物の有無や水深を把握するための調査等についても、これまでの区域と同様に引き続き行います。

今後の課題として、航路の状況を把握するカメラでの管理体制強化を図り、また、海上保安部との連携による緊急時の更なる対応強化に備えていく必要があります。



□:変更前区域 □:変更後区域

ちくぞうくんの豆知識

通常、船は右側通航が国際的なルールですが、狭く潮の流れが速い来島海峡ではこれが当てはまらず、「潮流に逆らう方が舵を切りやすい」という船の性質を生かした独自の航法がとられています。大きく湾曲した西水道では潮流に逆らい、ほぼ真っ直ぐの中水道では潮流に沿って進みます。つまり、潮が南流の時は左側通航、北流の時は右側通航となるのです。この世界で唯一の変則航法を「順中逆西（じゅんちゅうぎやくせい）」といいます。来島海峡を通る船は潮流信号等によりどちらの水道を通るかを決め、安全航行に努めています。



【現場だより】海のお仕事やっています！

当事務所が行っているみなとの整備について、現在の状況と今後の計画を各現場よりお届けします。普段何気なく利用しているみなとも、生活を支える産業の発展や自然災害を防ぐため、着々と整備が進められています。

●●● 松山港外港地区 ●●●

取扱貨物の増大や利用船舶の大型化に対応するため、多目的国際ターミナルの整備を行っています。水深13m岸壁が完成すれば、4万トン級の貨物船が接岸可能となり、四国及び瀬戸内経済圏の貿易拠点として、さらなる発展が期待されます。

★岸壁(-13m)

岸壁は、巨大なコンクリートの箱「ケーソン」を並べて造られます。岸壁全長260mのうち、これまでに約200m区間のケーソン据え付けを実施しました。今後も引き続き作業を進め、早期完成を目指します。

★泊地(-13m)

岸壁供用に向け、船舶が安全に停泊できる十分な水深が必要となります。このため、岸壁前面が13mの水深を確保できるよう浚渫工事を行います。

ちくぞうくんの豆知識

松山港は、空港との距離が近く、工事を行うには高さなどの制限があるため、ケーソンの据付は航空機の発着がない夜間での作業となります。高さ16mのケーソンは、クレーン付きの船(起重機船)によって現場まで運ばれますが、このクレーン、なんと海面から100mもの高さがあります。



▲ケーソン据付作業の様子(松山港)

●●● 三島川之江港金子地区 ●●●

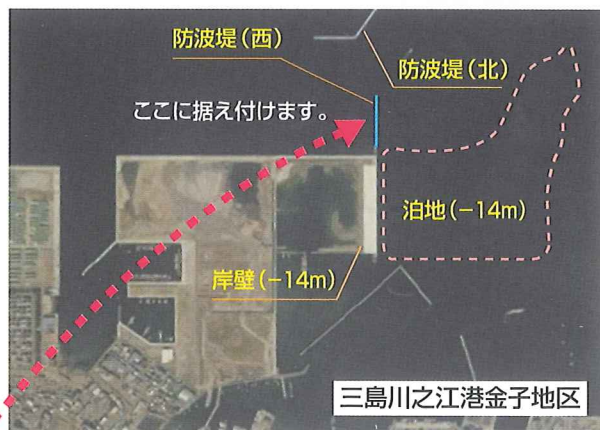
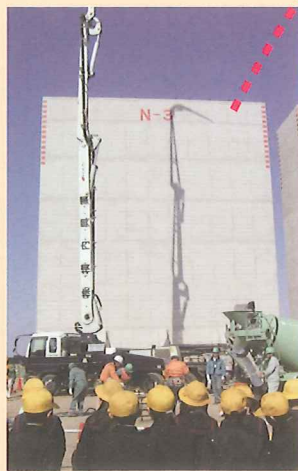
製紙原料貨物(パルプ、木材チップなど)の増大に伴う利用船舶の大型化に対応した岸壁の不足で、慢性的な滞船(船舶の沖待ち)を余儀なくされる事態が発生していました。こうした事態は物流の非効率化やコスト面での大きな弊害にもつながります。これらを解消するため、5万トン級の貨物船が接岸可能となる水深14m岸壁を備えた多目的国際ターミナルの整備を行っています。本岸壁は平成19年度末より暫定供用されていますが、引き続き整備を進め、利便性の高い施設完成を目指します。

～現場見学会を開催しました～

2月18日(水)三島川之江港がある四国中央市の中之庄小学校3年生を対象に、現場見学会を行いました。

完成した巨大なケーソンを前に、コンクリートを使ったケーソン建造方法の実演や、現場で使用する重機の役割について学習していただきました。

また、見学の記念として行った寄せ書きでは、実際にケーソンに触れることができ、みなとをより身近に感じるきっかけとなったのではないのでしょうか。



★防波堤(北)

港内の静穏度確保を目的とし、平成20年度内の完成を目指して鋭意整備を進めています。

★泊地(-14m)

これまでに、岸壁前面から約8割の部分について浚渫作業を実施しました。来年度も引き続き整備を行い、安全な水域を確保することで、更なる岸壁の利用促進を図ります。

★防波堤(西)

全長200mとなるこの防波堤は、これまでに約30m区間のケーソン据え付けが完了しています。平成21年度は据え付け工事により更に延伸し、残るケーソンの製作にも着手します。

今治港富田地区

3万トン級コンテナ船が入港できる水深12m岸壁と、水深10m岸壁が整備されています。これによって日韓定期コンテナ航路が拡大し、現在では週5便が就航しています。また、四国で初めてガントリークレーンを設置し、コンテナ荷役の効率化を図っています。

★防波堤

岸壁前面海域の静穏度確保を目的とし、防波堤の整備を進めています。防波堤全長500mのうち、これまでに約467m区間のケーソンを据え付けました。今後は残るケーソンの製作及び据え付けを行い、早期完成を目指します。



新居浜港東港地区

水深7.5m岸壁は阪神方面へのフェリーバースとなっており、神戸及び大阪へ1日2往復就航しています。

様々な分野で環境問題への取り組みが重要視される中、新居浜港では人やモノを運ぶ船舶における環境対策について、整備が進められています。

★船舶への陸電供給による温室効果ガス削減の推進

平成21年度は、陸上電力供給設備を利用して停泊中船舶の重油消費量やCO₂排出を削減する実証実験を行うため、水深7.5m岸壁に陸上電力供給設備を設置します。合わせて、排出ガス測定や騒音測定などの環境モニタリング調査により効果の検証を行い、今後の本格的な実用化に備えます。

こうした取り組みにより、みなとにおける大気環境の改善を図るなど、環境に配慮したやさしいみなとづくりを行うことも、事業を実施するうえでの重要なポイントです。



ちくぞくくんの豆知識

船は、岸壁に設置された係船柱(写真右)にロープを巻き付けて接岸し、停泊します。



企画調整課 N

【編集後記】

日に日に暖かくなり、春が近づいているのを感じます。私にとって、春は涙の季節でもあります。就職で地元を離れたこと、慣れない場所でのひとり暮らし、異動で友達とさよならしたこと…たくさんの涙がありました。転勤族の宿命ですね。もちろん、別れの後には新しい出会いが待っています。みなさんのもとへも、すてきな春が訪れますように…。



一事務所位置図



〒791-8058 松山市海岸通2426-1
 TEL 089-951-0161 (代表) FAX 089-946-8010



〒799-0402 四国中央市三島紙屋町6-45 四国中央市港湾庁舎
 TEL 0896-24-1808 (代表) FAX 0896-28-1036